

横田俊平氏は小児感染症と小児リウマチ、膠原病分野で活躍している。小児感染症では、成人とは異なる小児結核の病態を解明し、より積極的な治療を可能にした。

また、インフルエンザ脳症は小児に特有の併発症であるが、全国疫学調査で実態を究明し、研究と治療の進歩に奇与した。感染症が急性炎症性疾患とすると、慢性炎症性疾患の代表がリウマチ、膠原病である。新しい分野で、近年診断、治療が著しく改善されてきたが小児領域では認識が進まず、早期治療による関節、腎臓などの臓器破壊を防ぐ方法が全国各地から多数の相談を受けている。そして、文字通り「飛んでいく」とのこと。さらに、横田氏は専門医のいない地方で専門医育成のため、外来診察をサポートし、時には外来を立ち上げるなど若い小児科医への育成に力を注いでいる。

その他、全国的に小児医療体制が危機に瀕し、拠点の横浜氏でも疲弊、数の減少、救急医療体制の崩壊が進んでいた状況下で横田氏は市と協議し、市内7拠点病院に小児科医11〜18名の勤務を実現して24時間365日子どもの病気に対応するシステムを構築。この体制こそ日本の小児医療を救う道であるとして、現在、日本小児科学会では「地域小児科センター」として全国展開を図っている。このような経緯の中、横田氏は2008年、日本小児科学会会長に推挙

子どもの発育・発達を 支援し、病気の子ども に最高の医療を届ける ことができる環境を 目指して



小児科病棟を回診する横田氏

よこた しゅんぺい
横田 俊平 横浜市立大学大学院医学研究科
発生生育小児医療学 教授



推薦者 **松本 慶藏**

横浜市立大学医学部卒業後、横浜市の病院勤務を経て、研究のため渡米。帰国後、横浜市立大学小児科勤務。1998年、教授に就任。小児感染症と小児リウマチ、膠原病分野で活躍。同年、厚生労働省「インフルエンザ脳症」研究班として活動。現在は、横浜市立大学大学院医学研究科発生生育小児医療学大学院 教授、日本小児科学会 会長を務めている。

愛野記念病院 名誉院長



■若い小児科医へ指導する横田氏



■2008年日本小児科学会 会長
就任時にマニフェストを寄稿

され、学会誌に「新会長マニフェスト」を掲示した。

横田氏が今後の日本の小児医療の進むべき道を示してくれることに、大きな期待が寄せられている。